

全校の皆さん、おはようございます。

今週は一日体験入学があり、たくさんの中学生在が伊那西高校に来てくれました。昔を振り返ってみると、中学生から見る高校生は、そんなに歳は離れていないはずなのに、とても大人に感じたように思います。体験に来てくれた中学生も、きっと同じように感じたのではないでしょうか。高校という慣れない場での緊張もあったと思いますが、楽しそうに過ごす姿が見られ、中学生にとって大事な一日となったのではないかと思います。

一方で、大雨の影響により電車が止まり、学校に来ることができなかった中学生や在校生もいました。計画通りにならなかったこともあり、多くの人が大雨に振り回されることとなった体験入学でもありました。自然が相手のことですので仕方がないと思う反面、正直なところは「こんな大事な日に限って」という思いもどこかにあります。

特に今回は各地で災害級の大雨となり、具体的な被害を受けた人も多くあったかと思います。洗濯物もなかなか乾きませんし、何かと雨に困らされることが多いわけですが、かといって、まったく降らなければそれはそれで困ることになります。「恵みの雨」という言い方があるように、作物が育つためにはなくてはならないものですから、雨は大事なものです。

このように考えていくと、雨には良い面も悪い面もある、と片付けてしまいそうになりますが、別に雨は、私たちを喜ばせようと困らせようとも思っていないません。ただ自然の流れの中で、降るときは降りますし、降らないときは降りません。ですから、この「良い悪い」の中身は「私にとって都合が良いか悪いか」ということです。

自分の都合がすべて叶った理想の状態のことを仏教では「天」といいます。その「天」にいるような気持ちのことを「有頂天」ともいいますが、このような「天」の生き方は、仏教の授業で学んだとおり、私たちの迷いの生き方である「六道」の中のひとつです。現代の私たちは、どこまでも自分たちの都合を叶えようとし、それが正しいことと信じて疑いませんが、それが迷いの生き方だと仏教では見ているのです。降る雨を眺めながら、自分の都合の及ばない大きな世界に自分が生きていることを知るのも大切ではないでしょうか。